

目標の進捗状況報告書

(2012年度・大学)

担当部局は ☆印の箇所を記入してください。

I. 評価項目・要素と担当部局

本シートでの自己点検・評価を行う部局と項目・要素は次のとおりである。

対象部局	商学研究科
大項目	4 教育研究組織 (研究科)
中項目	
小項目	4.0.1 大学の学部・学科・研究科・専攻および附置研究所・センター等の教育研究組織は、理念・目的に照らして適切なものであるか。
要素	教育研究組織の編制原理 理念・目的との適合性 学術の進展や社会の要請との適合性 (KGI) 研究活動の状況
小項目	4.0.2 教育研究組織の適切性について、定期的に検証を行っているか。
要素	

II. 目標の進捗評価と進捗状況報告(2012.4.30現在の進捗状況報告)

《進捗評価》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況の自己評価を行っている。

進捗評価はA、B、C、Dの4段階とし、2012年4月30日現在における目標の達成度評価(2013年度の達成に対してどこまで進んだかの評価)を行った。A、B、C、D評価は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。
- B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。
- C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。
- D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
1. アドバイザリー・パネル制度を改編する。	→2005年度末に制定されたアドバイザリー・パネルに関する内規の改善内容 (委員の人数、任期、資格、役割の明確化などの再検討内容)を行うための会議開催回数。	C	C	C		
2. 研究科の使命・目的に照らして教育研究組織が妥当であるか否かに関して、継続的に検証する。	→妥当性の常時継続的検証のための会合開催回数。	C	C	B		

☆

2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	2009	2010	2011	2012	2013
	→					
	→					

《進捗状況》

目標の進捗状況について次のとおり簡単に説明する。

目標1	アドバイザリーパネルは実務家の観点から教育をサポートするものであり、マネジメントコース(いわゆる社会人大学院)を開設していた時のなごりである。マネジメントコースを閉鎖したことによる予算削減により、アドバイザリーパネル再開のめどはたっていない。現在は、アドバイザリーパネル以外の会社や実務家からの寄付講座を受けることで同様の効果を上げている。
★ 目標2	商学研究科の教員は、商学研究科単独で採用されるのではなく、学部の教員が兼任している。新任人事は学部での採用人事の際に商学研究科の理念・目的を実現するためにふさわしいかどうかを考慮して行っている。このため、現在の教員組織は、商学研究科の理念・目的を実現するためにふさわしいものとなっている。なお、2012年度からは、教員・教員組織の方針として、学部と商学研究科が密接に連帯して、商学研究科の理念・目標の実現に必要な教員組織を編成を行うことを明文化した。またカリキュラムについては、毎年、各分野において適切な開講科目と担当者を検討し、その結果を研究科委員会において審議、決定している。方針の明文化を受けて、進捗評価をBとした。
備考	